

2025 年 4 月 13 日 (日)

日本キリスト教団 ^{きゅうほうきょうかい} 久宝教会
第 67 巻第 55 号 (通算 3437 号)
教会設立 1959 年 6 月 14 日

しゅうほう
週報

教会標語

^{ちい}小さく^{ひと}されている人を
^{たいせつ}大切にする^{きょうかい}教会



〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺 6 丁目 7-10

主任担任教師・牛田 匡 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替：00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

【集会案内】こどもの礼拝：毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝：毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

丈夫な人に医者はいらないが、具合の悪い人には必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」
を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書 2:17)



しゅうろ しゅじつれいはい
棕櫚の主日礼拝

〔レント (受難節) 第6主日礼拝〕

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう 前奏 (黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば 招きの詞 コリントの信徒への手紙 I 1 章 18 節

さんびか ばん 賛美歌 21-305 番 「イエスの担った十字架は」 (©JASRAC)

しょうとう ことば 消灯の詞

さんびか ばん いばら かんむり しゅ 賛美歌 21-304 番 「茨の冠を主にかぶせて」 (©JASRAC)

せいしよ しょう 聖書 マタイによる福音書 27 章 32-56 節

いの 祈り

さんびか ばん 賛美歌 21-306 番 「あなたもそこにいたのか」 (©著作権消滅)

メッセージ「救いとは何か」 牛田 匡 牧師

さんびか ばん こうかい わた さんびかへんしゅういいんかい 賛美歌 21-312 番 「紅海を渡り」 (©讃美歌編集委員会)

しゅ いの ばん てん 主の祈り 21-62 番 「天にいます わたしたちの父」 (©讃美歌改訂委員会)

ささげもの 献げ物 (*)

は け ん ばん かみ めぐ う せつ 派遣 21-91 番 「神の恵みゆたかに受け」 (1 節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく うしだ ただし ぼくし 祝福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん 後奏 アーメン コーラス (21-40-6 番) (©教団讃美歌委員会)

ほうこく ばん 報告 (4 頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

招きの詞 コリントの信徒への手紙 I 1 章 18 節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)
18 十字架の言葉は、滅びゆく者には愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です。

しょうとう ことば
消灯の詞 (参照：ルカによる福音書 22 章 50－56 節)

イエス様が、十字架の上で息を引き取られたのに、弟子たちのほとんどが逃げてしまい、お墓までも見届けることをしなかったことを思いながら、この 6 つ目のろうそくを消します。

聖書 マタイによる福音書 27 章 32－56 節(聖書協会共同訳 ©日本聖書協会)

³² 兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、この人を徴用し、イエスの十字架を担がせた。³³ そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、^{34a} 胆汁を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。³⁵ 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその衣を分け合い、³⁶ そこに座って見張りをしていた。³⁷ イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。³⁸ 同時に、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられた。³⁹ そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスを罵って、⁴⁰ 言った。「神殿を壊し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」⁴¹ 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。⁴² 「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。⁴³ 彼は神に頼ってきた。お望みならば、神が今、救ってくださるように。『私は神の子だ』と言っていたのだから。」⁴⁴ 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスを罵った。(脚注 a: 別訳「苦いもの」)

⁴⁵ さて、昼の十二時から全地は暗くなり、三時に及んだ。⁴⁶ 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。⁴⁷ そこに立っていた何人かが、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言った。⁴⁸ するとすぐ、そのうちの一人が走り寄り、海綿を取って酢を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませた。⁴⁹ ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。⁵⁰ しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。⁵¹ その時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、⁵² 墓が開いて、眠りに就いていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。⁵³ そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人に現れた。⁵⁴ 百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「まことに、この人は神の子だった」と言った。⁵⁵ またそこでは、大勢の女たちが遠くから見守っていた。イエスに仕えてガリラヤから従って来た女たちであった。⁵⁶ その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

《先週のメッセージより》2025年4月6日 受難節第5主日礼拝

「下に上る生き方？」より

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 20章 20-28節

誰が最初に言い出したのは分かりませんが、イエス・キリストの生き様を表わす「下に上る生き方」という言葉があります。この後、続く21章では、いよいよイエス様と弟子たちは、古代イスラエル国の都エルサレムへと入城して行きます。弟子たちはイエス様がいよいよローマ帝国による支配から、ユダヤ民族を解放してくださる新しい王様になれる、と期待していた。そしてその際には、自分たちも重臣として取り立ててもらいたい、というような下心を抱いていました。そのような弟子たちに対して、イエス様は「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で頭(かしら)になりたい者は、皆の僕(しもべ)になりなさい」(26-27)と言われました。イエス様自身が「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように」(28)。

しかし、「上に立ちたいなら、まず下になりなさい」というのは、やっぱり何だか違うような気がしてしまいます。そのような言葉が、記されている背景には、「イエス様は『下に上る生き方』をされたのだから、私たちもイエス様に倣って『下に上る生き方』をするべきだ」というような「上から目線」があるように思います。そもそも、クリスマスに家畜小屋の片隅で生まれ、十字架で処刑死されたイエス様は、その生涯を振り返ってみると、ただの一度も人々の「上」に立ったことなどではなく、イエス様は、ずっと世の低みにあり続けました。そのように自らも苦しい生活の中にあっただからこそ、全ての人の苦しみを、他人ごとにはできず、放っておけなかったのだらうと思います。そしてその結果として、十字架での処刑後の3日目に死から引き起こされました。イエス・キリストは私たちのこの地上での重荷や悩み、苦しみを消し去り、雲の上の天上界に引っ張り上げて下さる神ではありません。むしろ、一緒に重荷を負ってくれる神、共に喜び、共に涙してくれる「共感共苦」の神です。たとえ今、どんな暗がりにあっても、神から見放されたと感じ、絶望しかないと感じていても、それでも「あなたの隣に私はいる」「私もあなたと同じ苦しみを経験した」と言って下さり、「だから、あなたは独りではない」と一緒にいて支えて下さる神です。その神様が共にいて下さることを感じながら、私たちは今日もここから、新しい年度、新しい一週間へと送り出されて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025 年 4 月 6 日 受難節第 5 主日礼拝

礼拝出席 大人 5 名 献金 大人 4,100 円 中継視聴者数 9 回 感謝

◎次週 2025 年 4 月 20 日（日）イースター（復活日）礼拝

招きの詞 コリントの信徒への手紙 I 15 章 54b-55 節

聖書 マタイによる福音書 28 章 1-10 節

メッセージ 「死を越える命」牛田匡牧師

賛美歌 333 番 (©出版局)、290、「絶望の中に主はよみがえる」(共に©JASRAC)



◎公告

- ・次週 4 月 20 日（日）の礼拝後には、イースターの愛餐会（昼食会）を行います。そして続けて、2025 年度定期教会総会を開催いたします。議案は、以下のように予定しています。教会員の皆様はどうぞご予定ください。

【第 1 号議案：総会議長及び総会書記選出】【第 2 号議案：組織】【第 3 号議案：2024 年度教勢報告】【第 4 号議案：2024 年度教会活動報告】【第 5 号議案：2024 年度教会会計決算】【第 6 号議案：2025 年度の教師謝儀等】【第 7 号議案：2025 年度教会活動計画】【第 8 号議案：2025 年度教会会計予算】【第 9 号議案：2025 年度 CS 会計予算】【第 10 号議案：役員（2025～2026 年度）選挙】【第 11 号議案：（2025 年）第 70 回大阪教区総会出席議員の選出】【第 12 号議案：その他】

◎お知らせ

- ・本日の礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けしてお配りいたします。どなたでもご参加ください。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。
- ・次週 4 月 19 日（土）13 時半～16 時にかけて日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウスにて修学院フォーラム「なぜアメリカのキリスト教は、イスラエルを支持するのか？」（講師：大宮有博さん）が開催されます。会場での対面参加の他にも、オンラインでのリモート参加も可能です。参加をご希望の方は 16 日（水）までにお申し込みください。

◎次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
4/20	牛田匡牧師	イースター礼拝・ユウカリスト・誕生者祝福式・愛餐会（昼食会） 定期教会総会
4/27	牛田匡牧師	（第二好意の庭・感謝祝福式） 教会堂での礼拝はお休みで、メッセージのYoutube配信のみ行います。
5/4	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
5/11	牛田匡牧師	家族の日礼拝

2025 年度 修学院フォーラム「いのち」第 1 回

日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター

なぜアメリカのキリスト教は イスラエルを支持するのか？

会場と
Zoom

講師 大宮 有博（関西学院大学法学部教授・宗教主事）

ネタニヤフとの会談後の会場でトランプから飛び出した。米国がガザを「所有」して再開発する、住民は移住させるといふトランプ発言。この会談の前、ネタニヤフはトランプと会談する前にワシントンでイスラエルを支持するキリスト教右派（「キリスト教シオニスト」と言います）の代表者たちと会談をしていました。ネタニヤフとキリスト教シオニストたちは、昨年 7 月には会食をしていました。近年、ネタニヤフはアメリカでは、ユダヤ・ロビーとともに、キリスト教シオニストを頼りにしていると言われています。

このフォーラムでは、トランプ 2.0 の始動で、活気を取り戻したキリスト教右派の動きを、イスラエルとの関係で見たいと思います。また、講演後半では、「自分たちはリベラルだ」と思うキリスト者のなかにも、実はキリスト教シオニズム的な要素があることも考えてみようと思います。

日時 2025 年 4 月 19 日（土）13:30～16:00

参加方法 関西セミナーハウス来場 または、リモート参加（Zoom）

参加費 来館/リモート共通 2,000 円 学生 500 円（リモートは送金で（案内票裏））



◎講師は、会場で講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。

【来館参加】関西セミナーハウスの会場に集まり、講演を聞き、話し合いに参加します。

【リモート参加】パソコンやスマートフォンなどを利用して、任意の場所からネットを通して参加することができます。申し込みの際にメールアドレスをお知らせください。開演後メールアドレス宛てに Zoom の参加リンクをお送りします。



大宮 有博 おおみや とむひろ

1970 年大阪まれ。
1995 年関西学院大学大学院神学研究科修士前期修了。
1999 年 Graduate Theological Union (MA 取得)。
2003 年 London Bible College (現 London School of Theology) (Ph.D. 取得)。
1999～2003 年まで Asbury Theological Seminary にて博士研究員。
神戸国際大学附属高等学校、神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、名古屋学院大学教員を経て、現在、関西学院大学法学部宗教主事・教員。
著書：『アメリカ・キリスト教入門』キリスト新聞社（2022）
訳書：『リベラル・ロー・フィクション』『反復の神』キリスト新聞社（2010）
論文：「安息日のエコノミカル解釈」『関西学院大学キリスト教と文化研究』24（2023）

※要申込※ 4 月 16 日（水）までに WEB フォーム、電子メール、電話、Fax 等で裏面票式の内容でお申し込みください。